

日本社会薬学会 News Letter

支部会だより

日本社会薬学会東海支部第 11 回例会報告

「ジェネリック医薬品と薬剤師の役割について」の講演会開催

平成 19 年 3 月 25 日（日）名城大学薬学部新 1 号館ライフサイエンスホールにおいて、社会的に話題になっている後発医薬品について講演会を開催しました。今回は「ジェネリック医薬品と薬剤師の役割について」と題し、学会会員はもとより市民・薬剤師・薬学生にも参加を呼びかけ、ジェネリック医薬品とその普及の問題点を正しく知ってもらうために開催しました。

講演はジェネリック医薬品に詳しい愛知県相生山病院近藤喜博薬剤部長が病院薬剤師の立場から注射剤を中心に、また開局薬剤師の立場から固形医薬品を中心に愛知県薬剤師会で委員も兼任する高村俊史先生（こうむら薬局）がそれぞれ講演されました。

厚労省が医療費削減のためジェネリック医薬品の使用を推進しているが、現状では、まだ普及しているとは言い難い状況であることについてアンケート調査結果が示されました。ジェネリック医薬品に対する地域患者の意識（患者がどのように捉えているか）。ジェネリック医薬品の使用状況。ジェネリック医薬品の選択状況。ジェネリック医薬品の評価（医薬品の効果・安全性・品質はどうか）。さらにジェネリック医薬品に関する情報収集と情報提供体制などについて詳細なデータと問題点が示されました。今日、医薬分業の進展により薬剤師の役割は大きく変化し、患者に対する適切な薬物療法、医薬品の説明が重要視されています。医薬品（先発）は社会の変化や薬に対する要求の変化に応じて改良（後発）されています。今後ジェネリック医薬品の普及には、詳細なデータの蓄積、情報の収集と提供や患者の理解が重要となり、薬剤師の役割が大きく関わるため、参加した薬剤師、薬学部教員から活発な討議が行われ、ジェネリック医薬品とその普及の問題点を知る有意義な講演会となりました。

日本社会薬学会東海支部事務局 飯田耕太郎（名城大学薬学部）